

ISAMU WAKABAYASHI

# 若林 奮

## 仕事場の人

DRAWING 1955-2003

**PRESS RELEASE**

若林奮（1936-2003）は制作の過程や、日常におけるさまざまな思考のプロセスを示唆するドローイングを多数遺しています。多摩美術大学若林研究会は、これらのドローイングの整理と調査をもとにアーカイブ化をすすめてきました。当館ではこれまでに同研究会の成果として1980年代から2003年までのドローイングについて同時代の彫刻作品とともに3回の展覧会において紹介してきた経緯があります※。本展では1950年代から2003年について、制作の拠点であったアトリエの遍歴を時代区分とし、ドローイングと彫刻作品をみていきます。若林の作品がアトリエの変遷とともにいかに変化していったのか、ドローイングと重ね合せながら、作家像に迫ります。

※ 2005年「若林奮 くるみの樹 DRAWING 1999-2003」、2007年「若林奮 DAISY 1993-1998」、2010年「若林奮 Dog Field DRAWING 1980-1992」



多摩美術大学美術館

2013.11.23 Sat → 2014.1.13 Mon

# 開催概要

## ■タイトル

若林 奮 仕事場の人 DRAWING 1955 - 2003

## ■会期

2013年11月23日(土)～2014年1月13日(月・祝)

## ■概要

没後10年にあたる本年、若林奮(1936-2003)が東京芸術大学彫刻科に入学した1955年から没年の2003年までを、制作に打ち込んだアトリエの変遷とともにみていく。本展では若林が日々描き続けた1万点にも及ぶドローイングより約220点をとりあげ、また学生時代に作られた石彫小品、「マニキュア・テキスト(1963)」、「疑似エントモプター(1965)」、「Run and Rest(1996)」、その他未発表エスキースや関係資料を展示する。2005年〈若林奮 くるみの樹 DRAWING 1999-2003〉、2007年〈若林奮 DAISY 1993-1998〉、2010年〈若林奮 DogField DRAWING 1980-1992〉につづく、多摩美術大学若林奮研究会企画による第4回展。

## 〈見せる〉ことへのためらい 若林奮

以前、ある美術学生と話したとき、かれは、今自分には人に伝えたいこと、伝えなければならないことがたくさんあって、それは絵、彫刻、その類、音楽、映画、文章その他なんでもよい、すぐにやりたいのだといらだたく、せきこんで話した。ぼくはそんなものかと思いながら、さらに、それほど人に伝えたいものをたくさん、今もっているのかと念をおすと、かれはふたたび、多くの言葉をつかってかれの使命を強調した。どんなことがあるのかと具体的に聞き出しはしなかったが、ぼくにはそれが納得できなかった。というのは、ぼく自身は考えてみると、それがごく少ししかないように思えるからである。どんなことでもしゃべるのなら、おそらく、無数にあるのだろうが、これは無用。これはいまさらいわなくても皆わかっていること。こんなことは恥ずかしいことなどを除いていけば、なにも残るものはない。それは、自分と仕事の量感をもあやしくしてしまう。せいぜい「風が吹いていた」とか、「この石は硬い」とかいう程度かもしれないし、そんなことはますます、人にいって聞かせるものでもないに違いない。(中略)ぼくには人に見せたりするものは出来ていないということがいえそうである。さらに、伝達の正確さは期待できないし、自分のものは人に見せるのは惜しいとも思うのである。自分がつくったものを人に見せるのは、そこになにかしら次の自分の手の届く範囲の大きさの変化の起点は期待しているのかもしれない。(中略)しかし、ぼくがもっとも注意をはらい、力を使うのは展示のとき以前の過程、すなわち、自分が他人と会わずに過ごせる期間である。そこには材料も、道具も、工作も、大きさも、重さもある。それらは別々にでなく、すべてに関連しながらである。

美術手帳 1971年第344号 p140 - 142より抜粋

## ■展示予定作品点数

ドローイング…約220点

彫刻作品…「マニキュア・テキスト(1963)」、「疑似エントモプター(1965)」、「Run and Rest(1996)」をはじめ約7点予定  
ほか写真資料など

## ■関連イベント

### ①講演会 タイトル「回想の若林奮」

日時／2013年11月24日(日) 14:00～15:30

講師／酒井忠康(世田谷美術館長)

会場／B1F 多目的室、参加無料、当日受付

### ②座談会 タイトル「仕事場の人 若林奮」

日時／2014年1月11日(土) 14:00～15:30

講師／浜 素紀(工業デザイナー)、早矢仕素子(画家)、佐藤亮司(造形作家) 河田政樹(美術作家)

司会／小泉俊巳(多摩美術大学教授、若林奮研究会代表)

会場／B1F 多目的室、参加無料、当日受付

## ■展覧会カタログ販売予定

■会場：多摩美術大学美術館

〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1

Tel. 042-357-1251 Fax.042-357-1252

<http://www.tamabi.ac.jp/museum/>

■開館時間： 10：00～18：00（入館は17:30まで）

■休館日：火曜日、年末年始（12月28日〔土〕～1月5日〔日〕）

■入館料：一般 300円（200円） 大・高校生 200円（100円）

障害者および中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体割引料金

■交通：京王線・小田急線・多摩モノレール 多摩センター駅下車徒歩7分

■主催：多摩美術大学

■企画：多摩美術大学若林奮研究会

■出品協力：東京国立近代美術館

■協力：WAKABAYASHI STUDIO

多摩美術大学油画研究室

## 広報用図版

掲載時には必ずクレジットを表記してください。トリミング、文字乗せはご遠慮ください。



若林奮「1958-047」1958年、個人蔵



若林奮「66-50」1966年、東京国立近代美術館所蔵



若林奮「1968+1979-002」1979年、個人蔵



若林奮「76-63」1976年、東京国立近代美術館所蔵



若林奮「疑似エントモーター [2nd Stage]」1965年  
鉄、H120 × W130 × D180cm、撮影：山本 紉、個人蔵

■取材、図版提供などのお問合せ  
多摩美術大学美術館（担当学芸員 吉田）  
Tel. 042-357-1251 Fax.042-357-1252  
e-mail yoshida@tamabi.ac.jp  
〒206-0033 東京都多摩市落合 1-33-1

## 若林奮 略年譜

1936年	1月9日 東京都町田町原町田1番地に生まれる。
1955年	4月 東京藝術大学美術学部彫刻科に入学。
1959年	3月 東京藝術大学美術学部彫刻科を卒業。基礎実技教室の副手となる（～1961年3月）。 6月頃 浜素紀の研究室で自動車製作に参加。
1962年	第47回二科展で金賞受賞。翌年、二科会会員となる（1966年に退会）。
1964年	町田工業高校美術講師となる（～1967年3月）。
1967年	第2回現代日本彫刻展で神奈川県立近代美術館賞受賞。
1968年	2月頃 再び濱研究室で自動車製作に参加。 5月 小金井に仕事場を持つ。
1969年	第9回現代日本美術展で東京国立近代美術賞受賞。
1971年	4月 淀井彩子と結婚。
1972年	3月 エジプト、ギリシャ、フランスを旅行。
1973年	10月 文化庁芸術家在外研修員として渡欧、パリに住む。帰国までにエジプト、イギリス、スペインを訪れる。 翌年、11月帰国。
1975年	4月 武蔵野美術大学助教授となる（1984年教授を辞す）。
1977年	第7回現代日本彫刻展で東京都美術館賞受賞。
1980年	6月1日～9月28日 第39回ヴェネツィア・ビエンナーレに出品（日本館コミッショナー：岡田隆彦）、他に榎倉康二、小清水漸が参加。
1984年	3月 西多摩郡瑞穂町にアトリエを持つ。
1985年	軽井沢・財団法人高輪美術館（現・セゾン現代美術館）の庭園を制作。
1986年	宗教法人・神慈秀明会本部（滋賀県甲賀郡信楽町）の庭園を手がけはじめる。 第42回ヴェネツィア・ビエンナーレに出品（日本館コミッショナー：酒井忠康）、他に眞板雅文が参加。
1989年	青梅市今井にアトリエを移転。
1995年	秋頃 東京都西多摩郡日の出町に東京都が建設しているゴミ処分場に反対する運動に協力して敷地内のトラストの土地に庭を造るプロジェクトをはじめ。
1997年	10月 第27回中原悌二郎賞受賞。
1998年	青梅市御岳にアトリエを移転。
1999年	多摩美術大学教授となる。
2003年	2002年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞（美術部門）。10月10日に逝去。

参考 多摩美術大学美術館「若林奮 くるみの樹 DRAWING 1999-2003」2005年、「若林奮 DAISY 1993-1998」2007年、「若林奮 Dog Field DRAWING 1980-1992」2010年、横須賀美術館「若林奮—VALLEYS」2008年